

学習状況と評価と評定のあり方について（説明）

1. 絶対評価の趣旨と評価の観点について、学習評価の考え方

平成14年度改訂の学習指導要領より、従来の「各生徒が集団の中でどの位置にいるか」を示す『相対評価』から『絶対評価』に評価の方法が変わりました。絶対評価とは「各生徒の学習状況を他の生徒と比べるのではなく、設定された目標に対してどの程度到達したか」という観点で評価を行う方法です。昨年度、令和2年度までは、各教科で項目数や表現、内容が異なりますが、基本的には①「関心・意欲・態度」、②「思考・判断・表現」、③「技能」、④「知識・理解」の4つの観点項目に対する評価を総合（総括）して、5段階評価を実施してきました。

しかし、平成29年3月告示の学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を示しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出せるよう、全ての教科等の目標と指導内容を①知識および技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理されました。このことを受けて各教科の目標および内容も統一整理され、評価の観点も①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点へ改訂されました。

2. 評価の方法の概略

各教科とも、上記①～③の観点について、各単元ごとに評価規準（個々の生徒を評価するための項目）が設定されています。その評価規準について次の基準に従って、A、B、Cの3段階で評価を行います。

A（十分満足）	：	80%以上～100%の達成状況
B（おおむね満足）	：	50%以上～80%未満の達成状況
C（努力を要する）	：	50%未満の達成状況

次に、各評価規準に対する評価を総括し、基本的には各単元毎（もしくは各学期毎）に最終評価を行い、上記①～③の観点について、評価をまとめます。

例えば、A君については、「知識・技能」はA、②「思考・判断・表現」B、③「主体的に学習に取り組む態度」Aというように、各単元毎（もしくは各学期毎）に評価をまとめます。

次に、各観点に対するA、B、Cの評価を5段階の評定に総括することになります。各観点に対する評価はA、B、Cのいずれかになりますので、3観点に対するパターンは、各観点の順序を考えなければ「AAA」～「CCC」のパターンの中で色々なパターンが現れることとなります。このパターンのそれぞれについて、評定をつけることとなりますが、その基本は次のようにしています。

3 観点	評 定
「AAA」	「4」又は「5」
「BBB」	「3」
「CCC」	「2」又は「1」

「AAA」を「十分満足できるもの」とし、評定「4」を基本としており、その中でも「特に程度の高いもの」を評定「5」としてしています。

同様に、「CCC」を「努力を要するもの」とし、評定「2」を基本としており、その中

でも「一層努力を要するもの」を評定「1」としてしています。

以上の述べたことを、達成率を含めてまとめると、次表のようになります。

達成率	評価	評定	達成率
80%以上～100% 十分満足できる	A	5	90%以上 十分満足できるもののうち 特に程度が高いもの
		4	80% ≤ 十分満足できる < 90%
50%以上～80%未満 おおむね満足	B	3	50% ≤ おおむね満足 < 80% (基準)
0%～50%未満 努力を要する	C	2	20% ≤ 努力を要する < 50%
		1	20%未満 一層努力を要する

各観点の順序を考慮しないで、A, B, Cが出現するパターンを表に表すと、次表のようになり、各パターンに対して、どのような評定をつけるかということをおおむね決めておいて、評定を行っています。なお、評定が2つにまたがるパターンについては、それぞれの生徒の学習状況を考慮し評定を決定しています。

各教科の観点別評価に基づく評価パターン

観点別評価 パターン	評 定				
	5	4	3	2	1
A A A	○	◎			
A A B		◎			
A A C		○	◎		
A B B		○	◎		
A B C			◎		
B B B			◎		
A C C			◎	○	
B B C			◎	○	
B C C				◎	
C C C				◎	○

◎は、各パターンで主となる評定
○は、学習状況によってつける評定

生徒の学習の状況等により、「A A C」や「A C C」というような、特定の観点が「C」となることが考えられます。いずれも基本的な評価は「3」となりますが、特に「A A C」の場合、2つの「A」がかなり高い達成状況であり、かつ「C」が50%に近い達成状況の場合には、「A A C」は「4」と評価することもあり得ると考えられます。いずれにしても、観点別評価での「C」評価の状況を十分かつ慎重に考慮して評価していきます。

総括した評価の返却については、教師自身の指導の工夫改善を行うとともに、生徒個人の学習の振り返り（よい点や課題点）や次の学習に向かう意欲を持つことができるように、実施していきます。